



応援サイトを紹介する黒金さん(左)と宮澤重嗣さん



町商工会青年部が発行したチラシ「猪苗代テイクアウト」

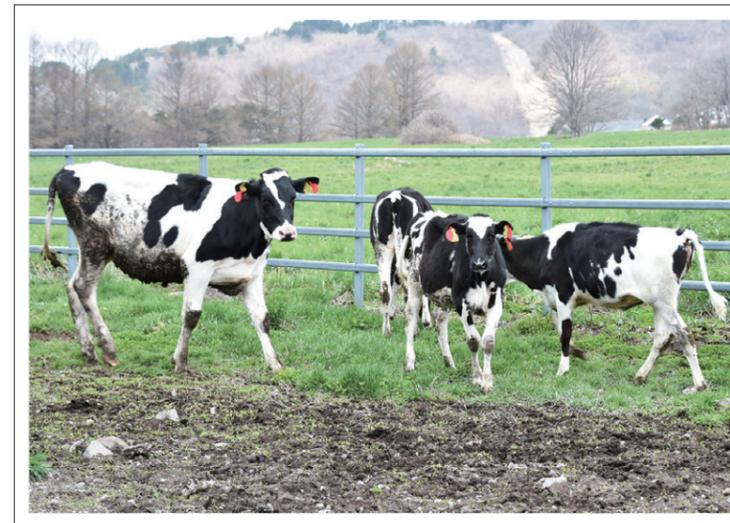
町内飲食業業者を応援

青年団体がホームページやチラシで情報発信

猪苗代青年会議所では4月下旬、磐梯高原エリア(猪苗代、磐梯、北塩原の3町村)のテイクアウトが可能な飲食店などを紹介するホームページ「磐梯高原エール〜コロナに負けない!猪苗代・磐梯・北塩原応援サイト」を立ち上げました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う国の緊急事態宣言により売上げが落ち込んでいる3町村の飲食店などを応援しようと同会議所地域活性委員会のメンバーが中心となって企画しました。5月末現在、応援サイトには約30店舗のテイクアウト商品の写真や料金などが掲載されています。

地域活性委員会委員長の黒金泰寛さんは「サイトの立ち上げを通じて、新しいテイクアウトメニューの開発にもつなげることができました。今後は、飲食店だけでなく観光業などさまざまな職種の情報も発信して地域の活性化を図りたいです」と話しました。

また、町商工会青年部では、同会議所などと協力し、町内のテイクアウトが可能な飲食店の情報を掲載したチラシ「猪苗代テイクアウト」を作成。5月3日に新聞折り込みで各世帯に配布しました。



町営磐梯山牧場の「パドック」に放たれた乳牛

同日、6頭の乳牛を預託した成田昌弘さん(不動)は「放牧すること牛の足腰が丈夫になり、良い牛乳を出すことができます。新型コロナウイルス感染症が収束したら、以前のように多くの人に町営牧場に足を運んでもらいたいです」と話しました。

放牧された牛は、肉牛と乳牛に分けて放たれます。牛が環境に慣れるまでのしばらくの間は「パドック」と呼ばれる約400平方メートルの区画で過ごし、その後、肉牛は約7ヘクタール、乳牛は約8ヘクタールの草地に放牧されます。

町営磐梯山牧場の開牧式は4月27日、同牧場で行われ、今年度の牛の放牧が始まりました。放牧初日となったこの日は、町内外の畜産農家から預託された合計14頭の牛が放牧されました。放牧は10月末まで行われます。同牧場を管理する町振興公社では、雪解けが早かったことや草地更新作業により牧草の栄養状態が安定していることなどから、例年より約1ヶ月早く預託牛の受け入れを始めた。町振興公社では、昨年度を上回る20頭以上の受け入れを目指しています。

退任選挙管理委員に感謝状

退任選挙管理委員感謝状贈呈式

町選挙管理委員への感謝状贈呈式は5月13日、町役場で行われ、前後公町長が退任した鈴木傳さん(半坂)、鈴木清孝さん(西館)、小椋山政恒さん(大原)の3人に感謝状を手渡しました。感謝状を受けた3人は、平成28年4月から1期4年にわたり選挙管理委員として適正な選挙の執行に尽力されました。前後町長は「公職選挙法をはじめとする多くの法令に基づいた適正な選挙の執行に感謝します」とあいさつを述べました。



贈呈式に出席した(左から)小椋山さん、鈴木清孝さん、前後町長、鈴木傳さん



ブランデーケーキを紹介する福地さん(左)と妻の理恵さん

名曲モデルに商品開発

沼尻高原鉄道車両をイメージ

中ノ沢温泉街にある菓子店「日乃小屋」の福地顕さんは5月20日、古関裕而さんが作曲した名曲「高原列車は行く」のモデルとなった沼尻軽便鉄道の車両をイメージした「懐かしのブランデーケーキ」(税別1,200円)を発売しました。町のブランド米「いなわしろ天のつぶ」の米粉を小麦粉に加えて焼き上げ、同店のほか道の駅猪苗代などでも販売しています。福地さんは「ふんわりとした柔らかい食感を楽しんでほしいです」と話しました。

まちの応援マガジン いなわしろ 広報猪苗代

Jun.2020
6
No.716

今月の表紙



【撮影日】 5月27日
【撮影場所】 不動

畜産業を営む成田昌弘さん、芽依さんご夫妻です。成田さんの牧場では乳牛と肉牛合わせて約100頭の牛を愛情込めて飼育しています。

Contents — 【目次】

- 02 Pick Up
- 03 まちのわだい
- 04 総合健診のお知らせ
- 06 笑顔でこんにちは/地域おこし協力隊通信
- 07 新型コロナウイルスなどの感染症対策のためのご家庭でのごみの捨て方
- 08 いなわしろタウンページ
- 10 暮らしの情報広場
- 14 みんなの美術館/食生活改善推進員コーナー